

**第3部 より日常的にケアをしている層の
絞り込み集計**

絞り込み集計の内容

【説明】

今回のアンケート調査の回答内容を踏まえると、家族のケアを現在行っている回答者において、純粋な「家事手伝い」も含まれていると考えられることから、より「ヤングケアラー」に該当すると想定される層（以下「より日常的にケアをしている層」という）を抽出し、家族のケアを現在行っている回答者全体との間で傾向の比較を行った。

【「より日常的にケアをしている層」の抽出方法】

全回答者（N=14,237）のうち、

- ・問10において【家族のケアを現在行っている】を選択 かつ
- ・問16において「ケアの頻度」が週3日以上（【週に3～5日】【ほぼ毎日】を選択）かつ
- ・問17において「平日のケアの時間」が2時間以上（【2～4時間】【4～6時間】【6～8時間】【8時間以上】を選択）の回答者を「より日常的にケアをしている層」として抽出した。

【抽出結果(対象数)】

中学校2年生	59人	
全日制高校2年生	42人	
定時制高校2年生相当	9人	計 110人

※家族のケアをしている回答者（626人）に占める割合、アンケートの全回答者（14,237人）に占める割合は、それぞれ17.6%、0.8%である。

【備考】

調査結果のグラフ化にあたり【無回答】【その他】の数値が「0」の場合、当該グラフに表示しない。

第3部 目次

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

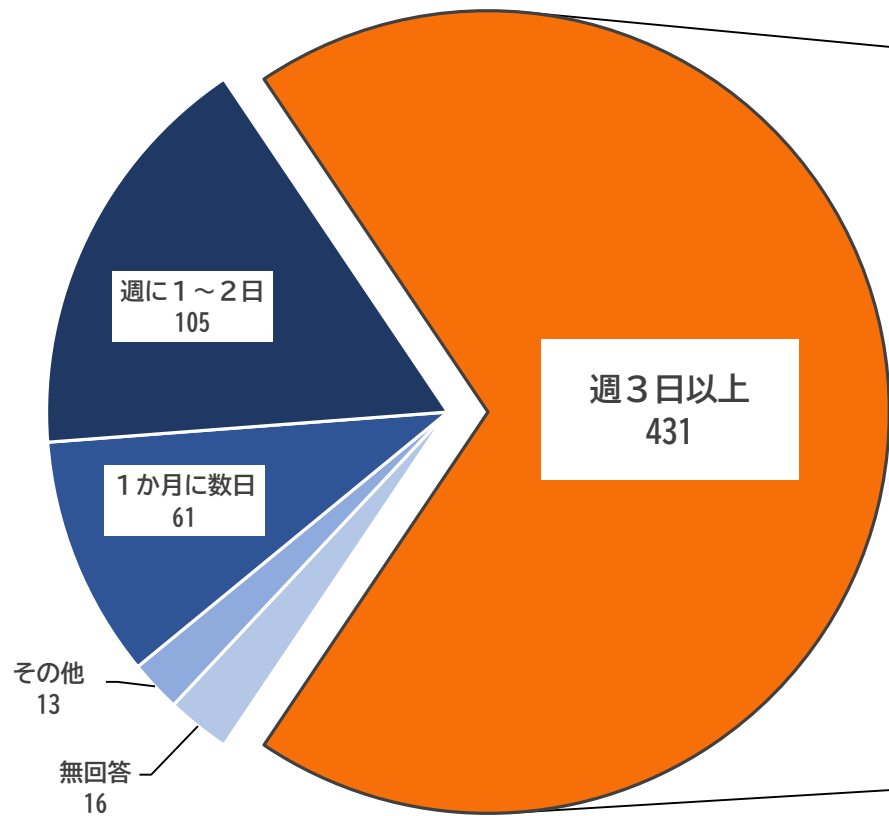
「より日常的にケアをしている層」の抽出イメージ	56
問2 性別	57
問4 健康状態	58
問5 欠席の状況	59
問6 遅刻や早退の状況	60
問7 部活動への参加状況	61
問8 平日の自宅での勉強時間	62
問9 一緒に住んでいる家族の構成	63
問11 ケアを必要とする家族	64
問12 ケアを必要とする家族の主な課題	65
問13 主なケアの内容	66
問14 一緒に家族のケアをする人①	67
問14 一緒に家族のケアをする人②	68
問14 一緒に家族のケアをする人③（類型化後）	69
問19 自分の生活への影響①	70
問19 自分の生活への影響②（類型化後）	71

問20 ケアに関する悩みの相談経験	72
問21 （相談経験がある方）相談した相手	73
問22 （相談経験がない方）相談しなかった理由	74
問25 家族のケアを行う子供のためにあれば良いと思う支援	75

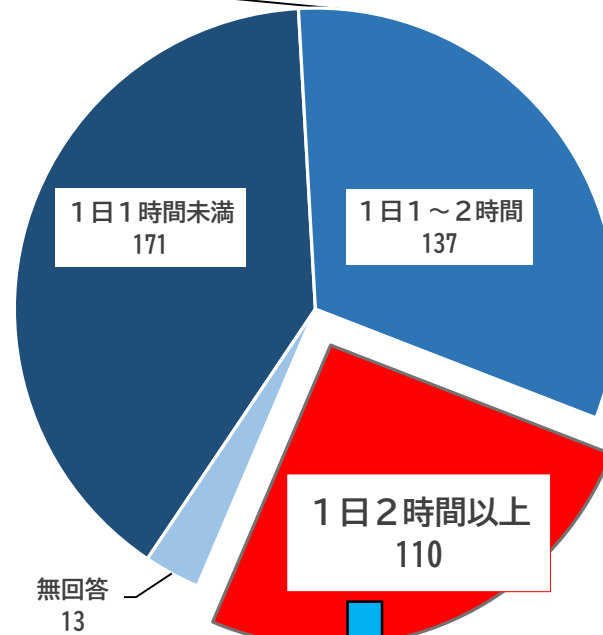
「より日常的にケアをしている層」の抽出イメージ

家族のケアを現在行っている回答者（N=626）のうち「週3日以上 かつ 平日1日あたり2時間以上ケアを行っている」層（N=110）について、家族のケアを現在行っている回答者全体との間で比較分析を行った。

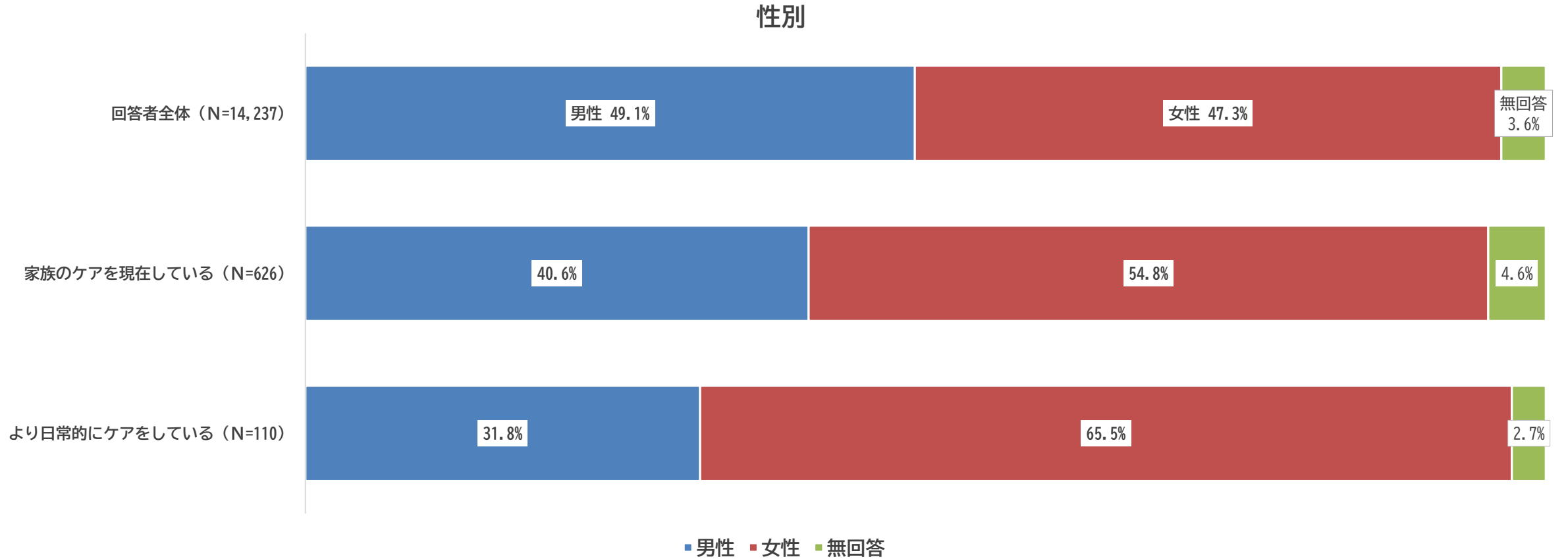
問16 ケアの頻度（N=626）



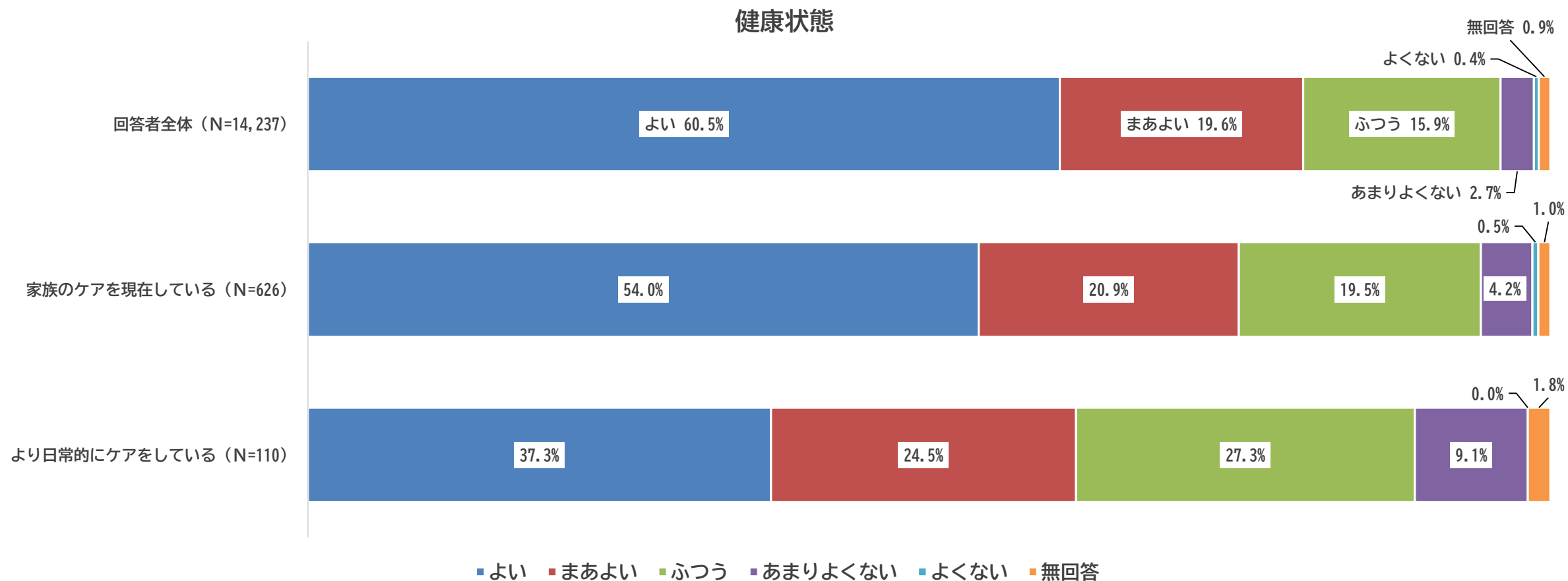
週3日以上ケアしている回答者における、平日1日あたりのケアの所要時間（N=431）



より日常的にケアをしている層
(週3日以上かつ平日1日あたり2時間以上ケアを行っている層)

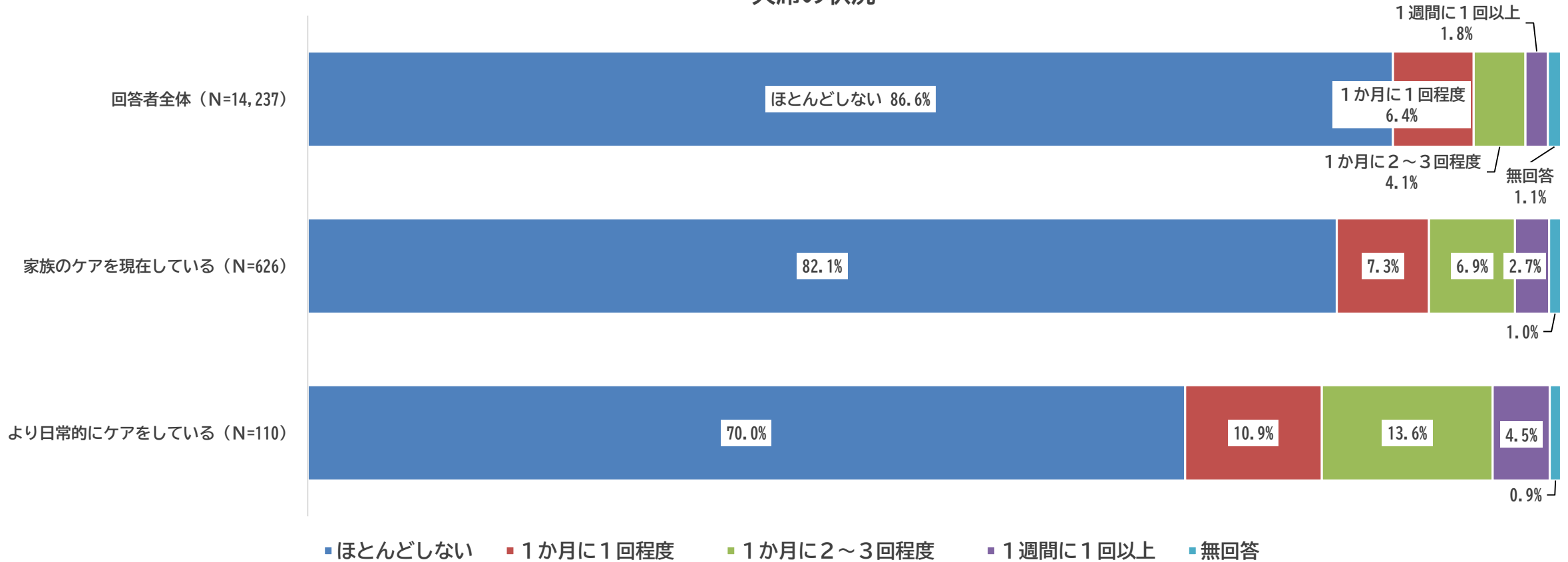


◇家族のケアを現在している層において、女性の占める割合が男性を上回っており、より日常的にケアをしている層ではその割合がさらに上昇した。



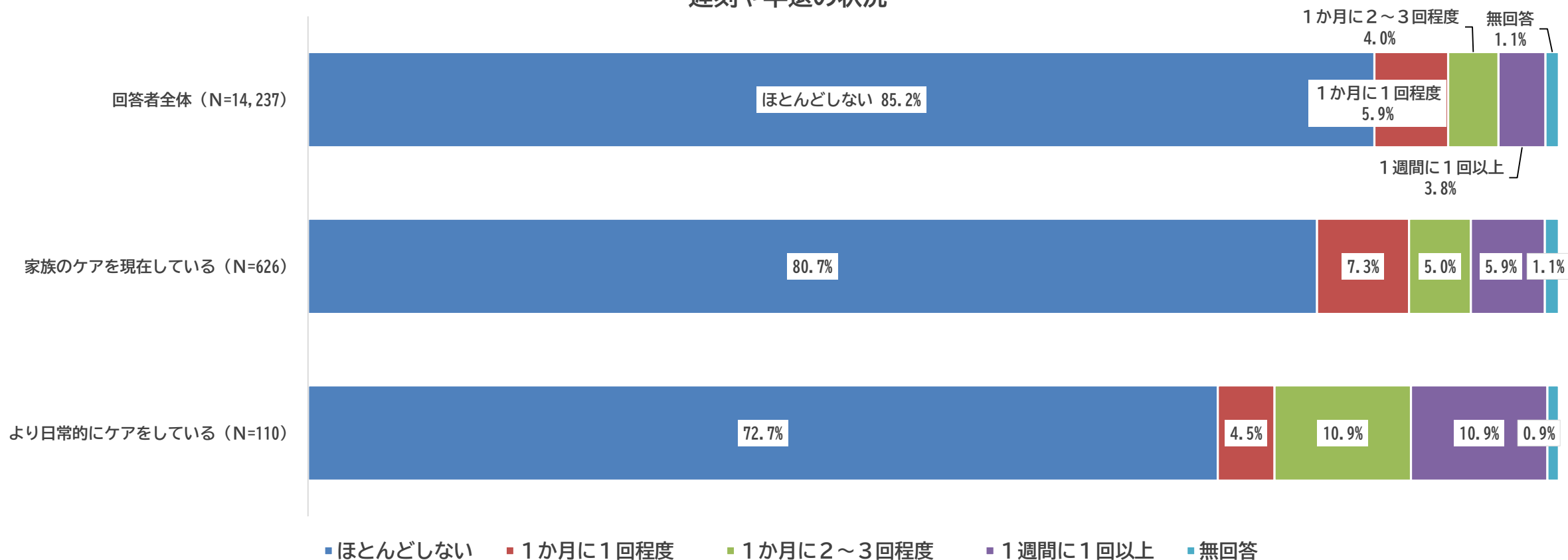
◇健康状態については、より日常的にケアをしている層において【よい】と【まあよい】を合わせた割合が減少し、【あまりよくない】と【よくない】を合わせた割合が増加した。

欠席の状況



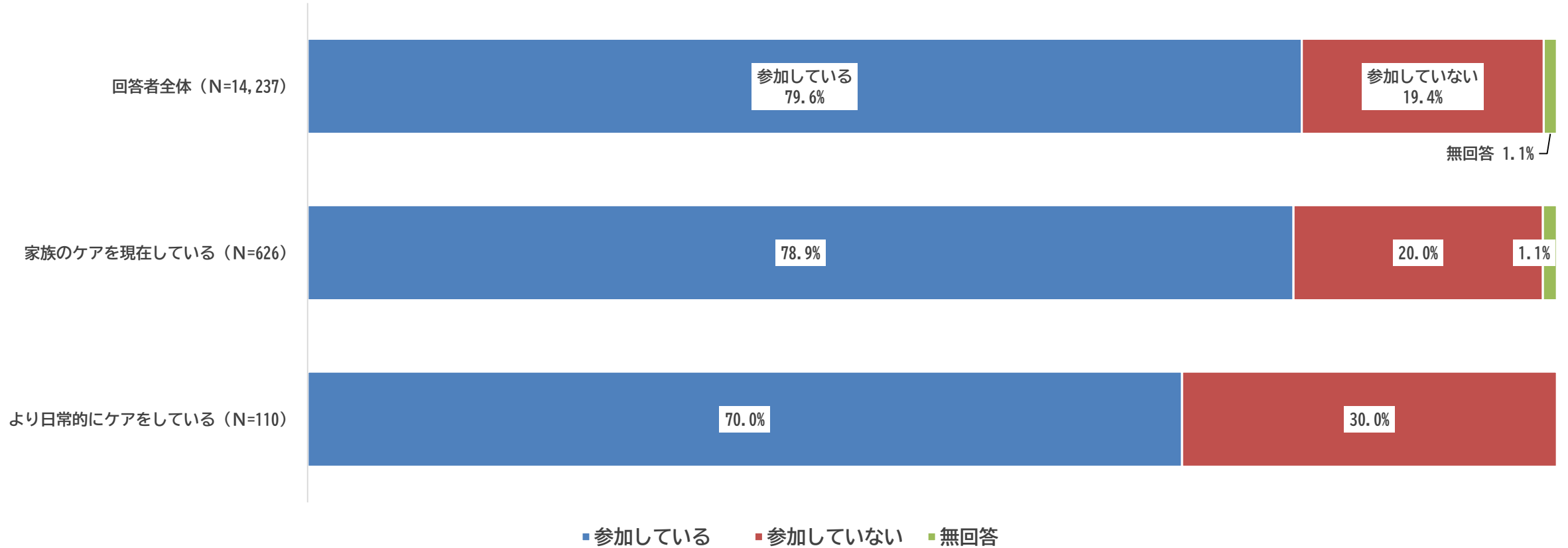
◇学校の欠席状況については、より日常的にケアをしている層において【ほとんどしない】と【1か月に1回程度】を合わせた割合が減少し、【1か月に2～3回程度】と【1週間に1回以上】を合わせた割合が増加した。

遅刻や早退の状況



◇遅刻や早退の状況については、欠席の状況と同様に、より日常的にケアをしている層において【ほとんどしない】と【1か月に1回程度】を合わせた割合が減少し、【1か月に2～3回程度】と【1週間に1回以上】を合わせた割合が増加した。

部活動への参加状況

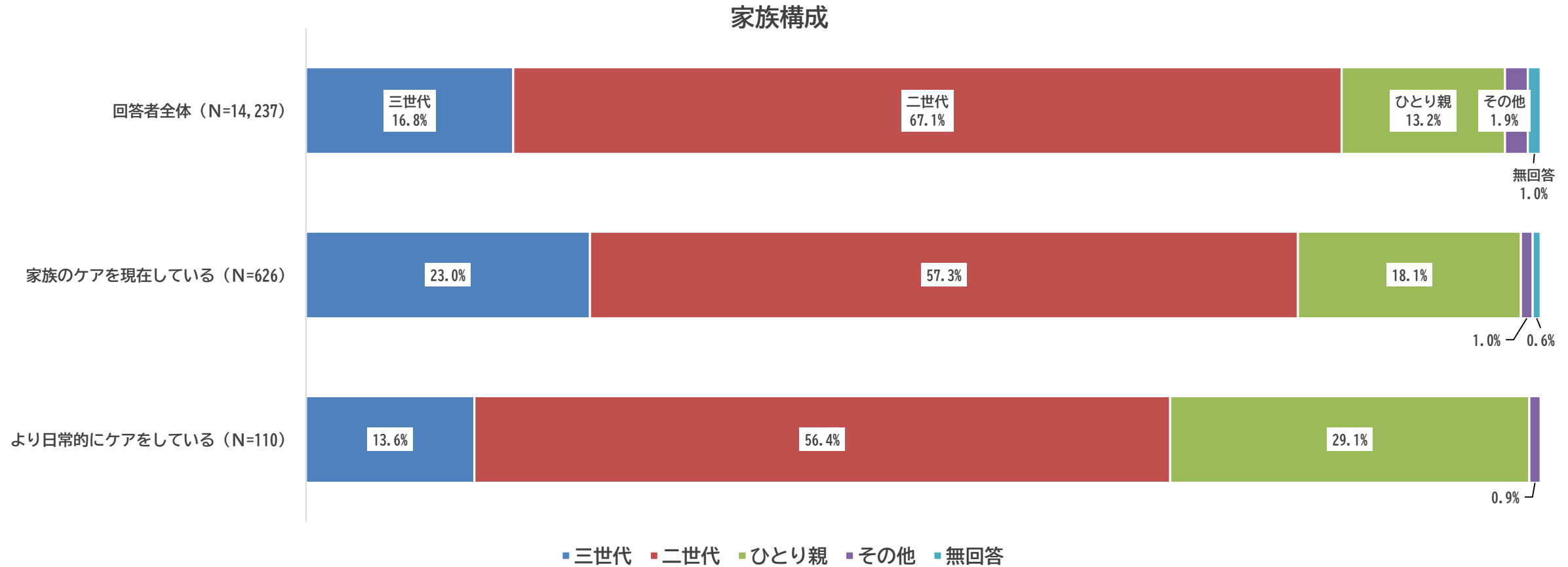


◇部活動への参加状況については、より日常的にケアをしている層において、【参加している】の割合が減少した。

平日の自宅での勉強時間



◇平日の自宅での勉強時間については、回答者全体と家族のケアを現在している層との間でほとんど差異は見られなかったが、より日常的にケアをしている層においては、自宅での勉強時間が若干短くなった。

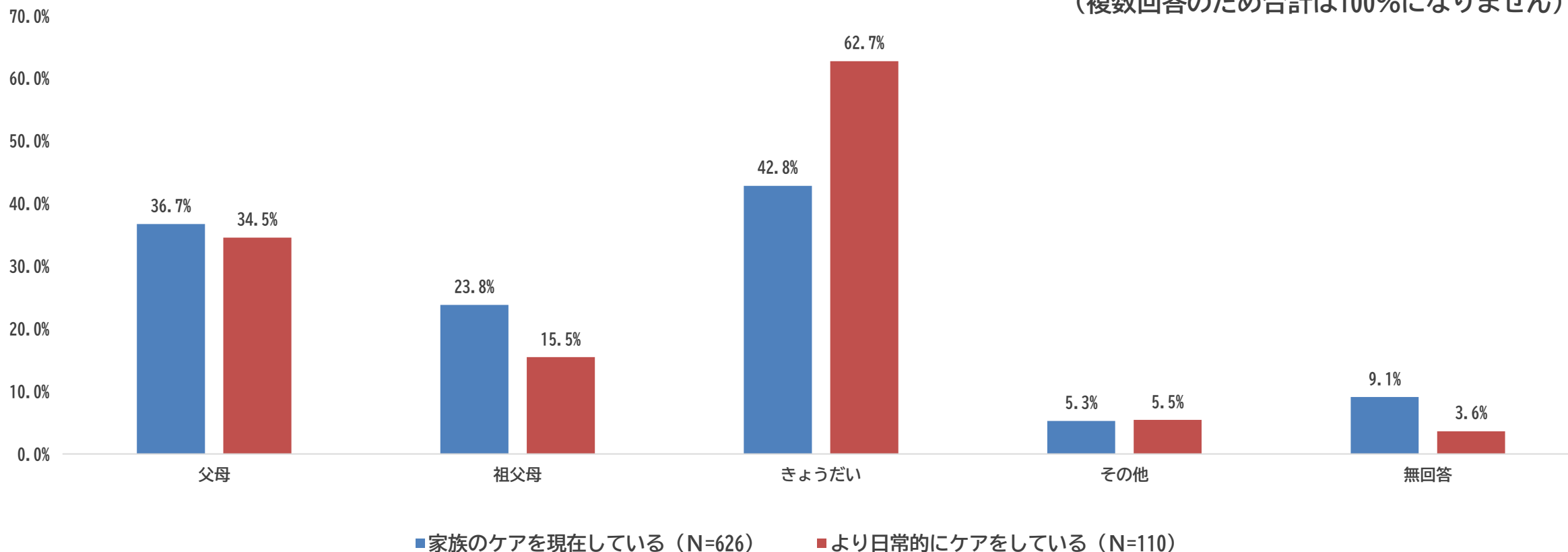


◇家族の構成員について、【三世代世帯】【二世代世帯】【ひとり親世帯】【その他】に類型化（第1部参照）して比較したところ、より日常的にケアをしている層において、【ひとり親世帯】の割合が大きくなった。

ケアを必要とする家族（問11）

ケアを必要とする家族

◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
(複数回答のため合計は100%になりません)



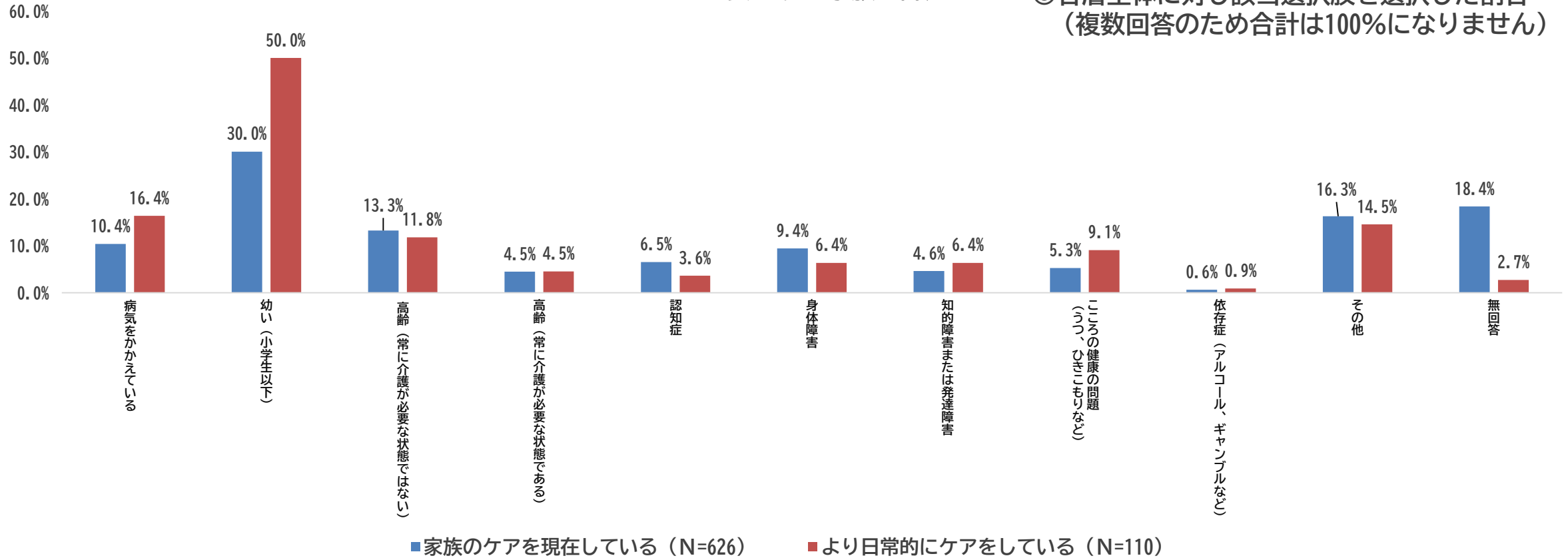
◇ケアを必要とする家族については、より日常的にケアをしている層において【父母】【祖父母】の割合が低下し、【きょうだい】の割合が増加した。

ケアを必要とする家族の主な課題（問12）

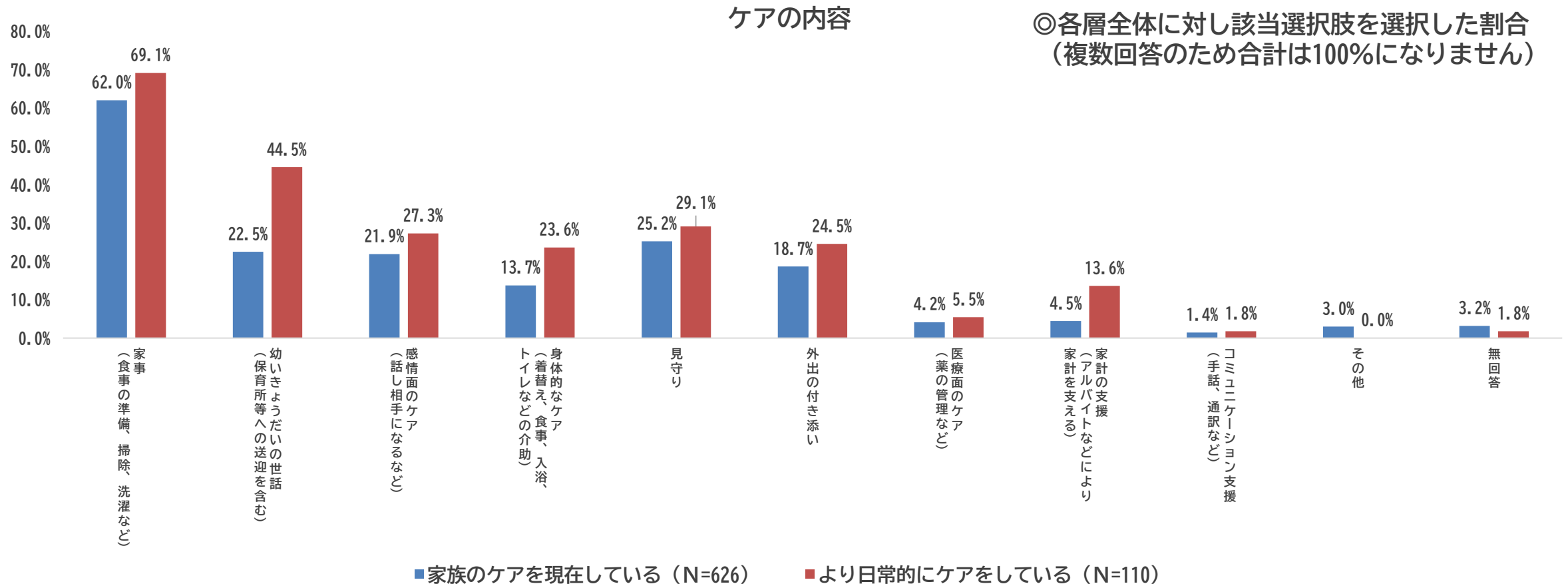
中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

ケアを必要とする家族の課題

◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
（複数回答のため合計は100%になりません）



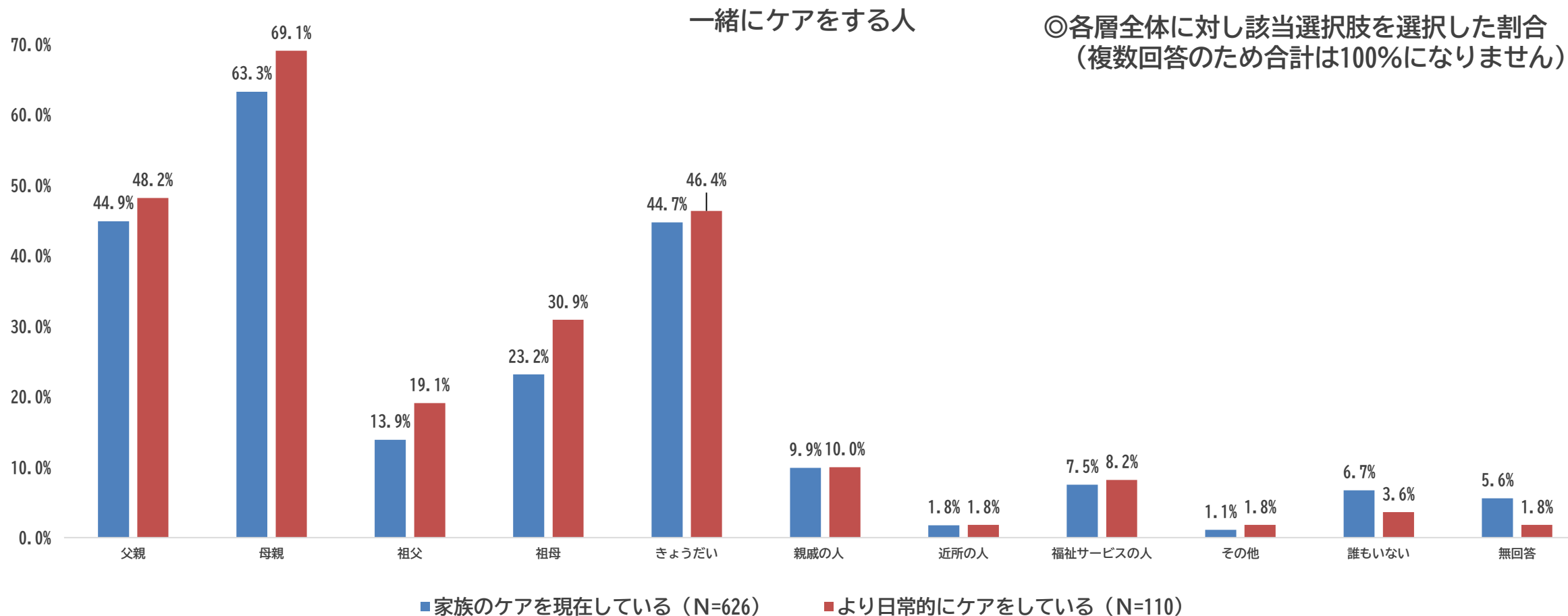
◇ケアを必要とする家族の課題については、より日常的にケアをしている層において、【幼い】の割合が大きく増加した。問11「ケアを必要とする家族」において【きょうだい】の割合が高いことから、弟・妹の世話をしているケースの多いことがうかがわれる。



◇ケアの内容については、より日常的にケアをしている層において【幼いきょうだいの世話】の割合が、次いで【身体的なケア】【家計の支援】の割合が増加した。問11「ケアを必要とする家族」において【きょうだい】の割合が高いことから、弟・妹の世話をしているケースの多いことがわかる。

一緒に家族のケアをする人①（問14）

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果



◇一緒にケアをする人については、より日常的にケアをしている層において【誰もいない】の割合が減少し、【祖母】、次いで【母親】、【祖父】の割合が増加した。問11「ケアを必要とする家族」において【きょうだい】の割合が高いことから、母親を助けて弟・妹の世話をしている状況がうかがわれる。

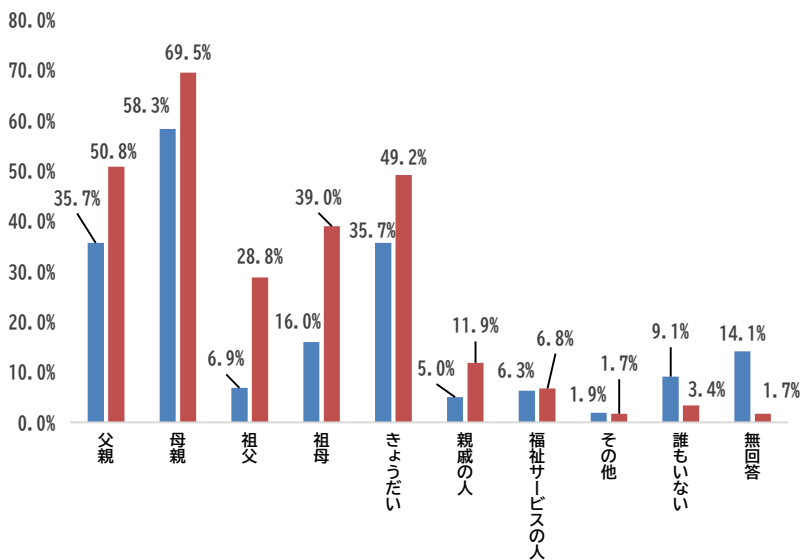
一緒に家族のケアをする人②（問14）

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

一緒にケアをする人（学校種別・全国調査値との比較）

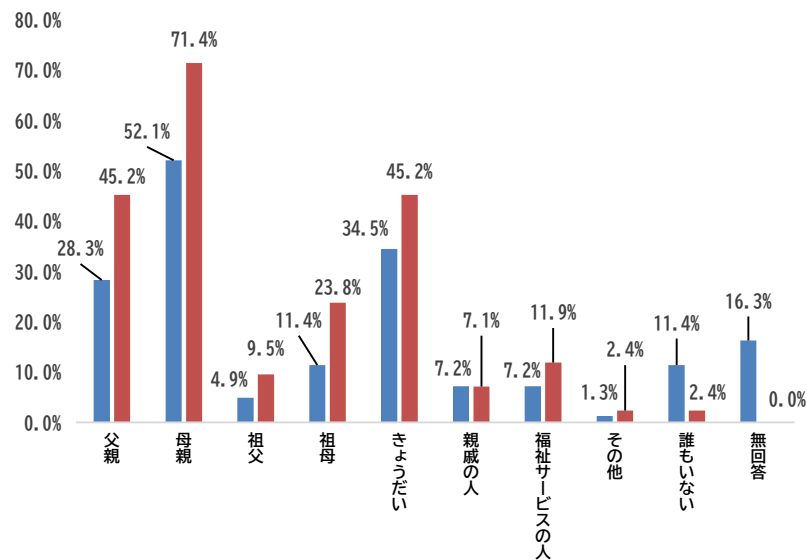
◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
（複数回答のため合計は100%になりません）

中学校2年生



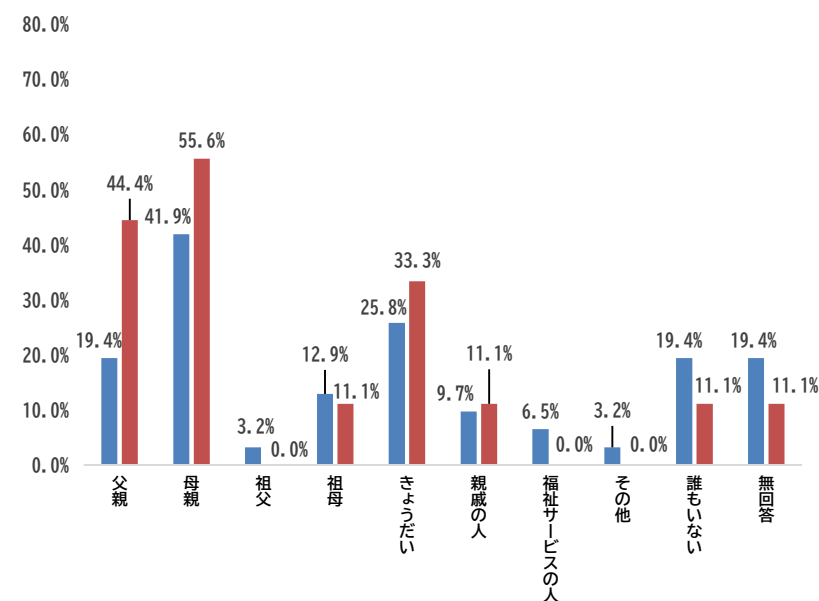
■全国調査 (N=319) ■より日常的にケアをしている (N=59)

全日制高校2年生



■全国調査 (N=307) ■より日常的にケアをしている (N=42)

定時制高校2年生相当

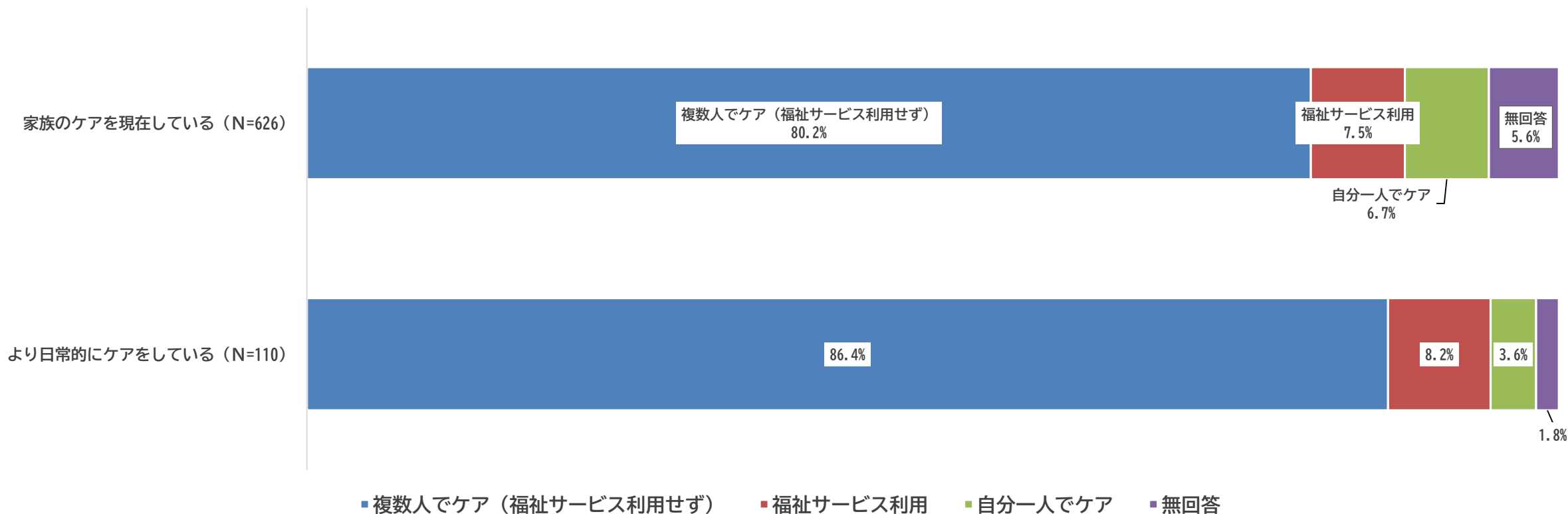


■全国調査 (N=31) ■より日常的にケアをしている (N=9)

※参考「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和3年3月）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より作成

◇一緒にケアをする人について、学校種別に全国調査値とより日常的にケアをしている層を比較すると、【誰もいない】の割合が低い一方、家族の各構成員の割合が概ね高かった。なお、比較に際し全国調査に【近所の人】の選択肢がないため、当該項目を除いて比較した。

一緒にケアをする人（類型化後）



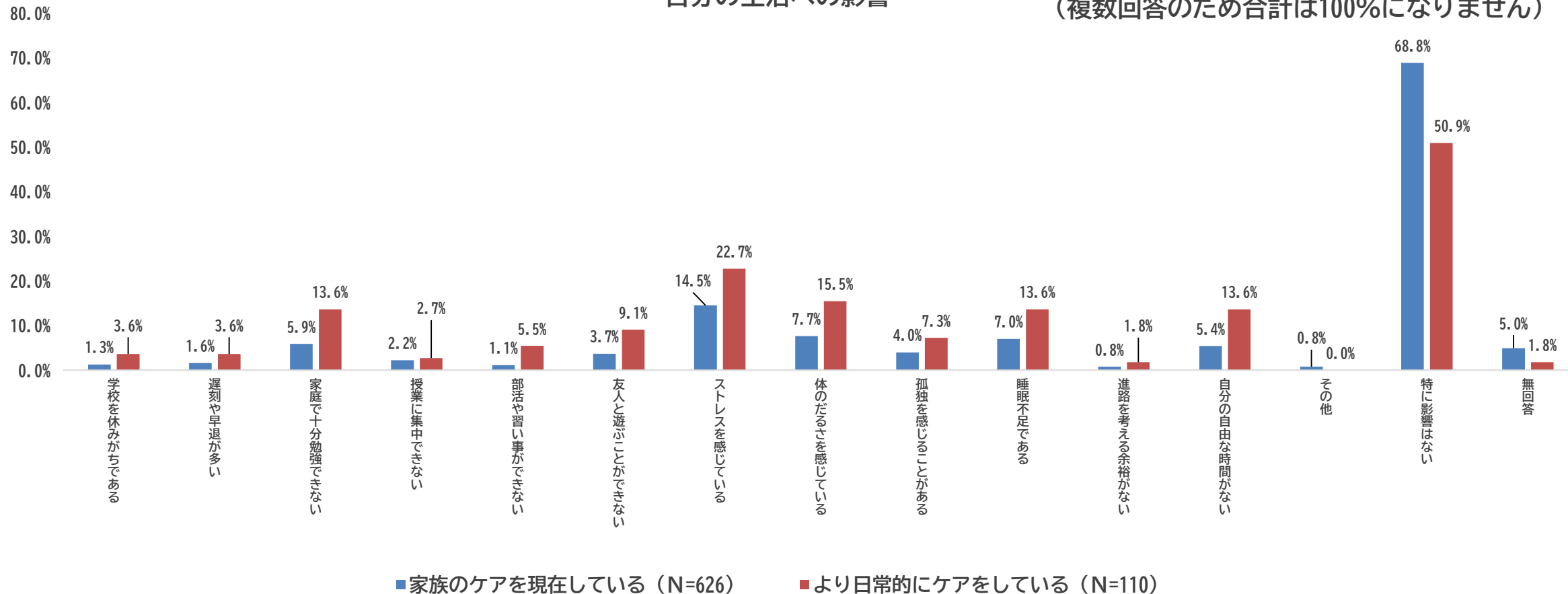
◇一緒にケアをする人について、【複数人でケア（福祉サービス利用せず）】【複数人でケア（福祉サービス利用）】【自分一人でケア】【無回答】に類型化（第1部参照）して比較したところ、より日常的にケアをしている層において【自分一人でケア】の割合がやや減少した一方、【複数人でケア（福祉サービス利用）】の割合は微増に留まった。

自分の生活への影響①（問19）

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

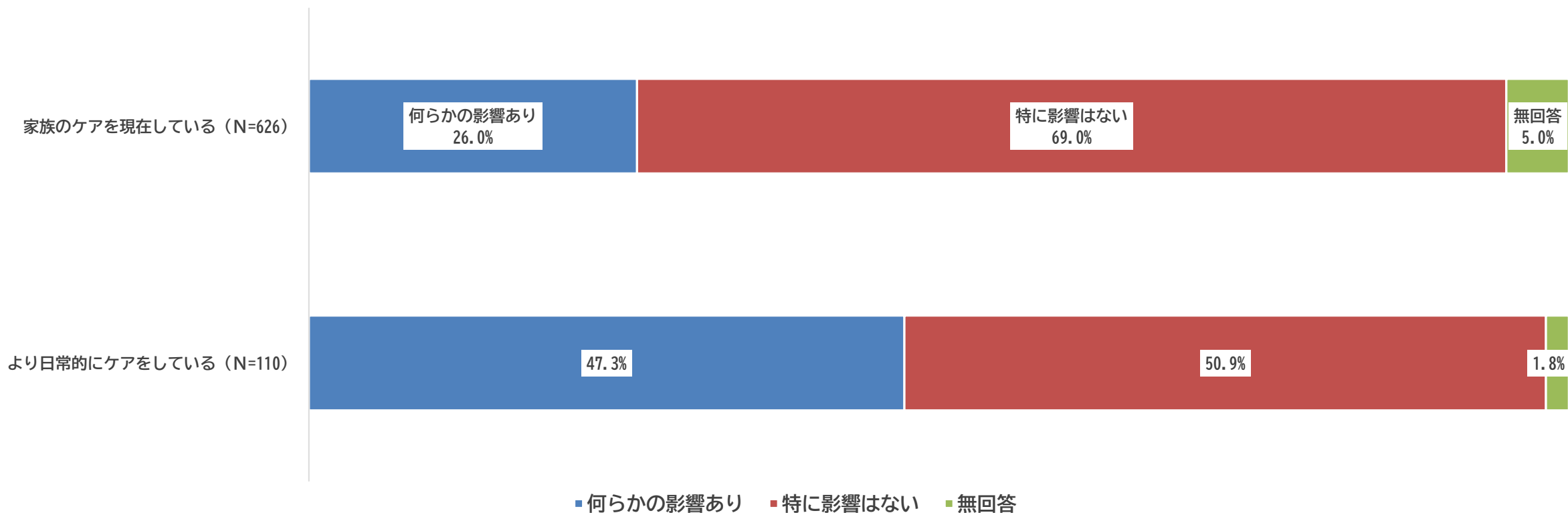
自分の生活への影響

◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
(複数回答のため合計は100%になりません)



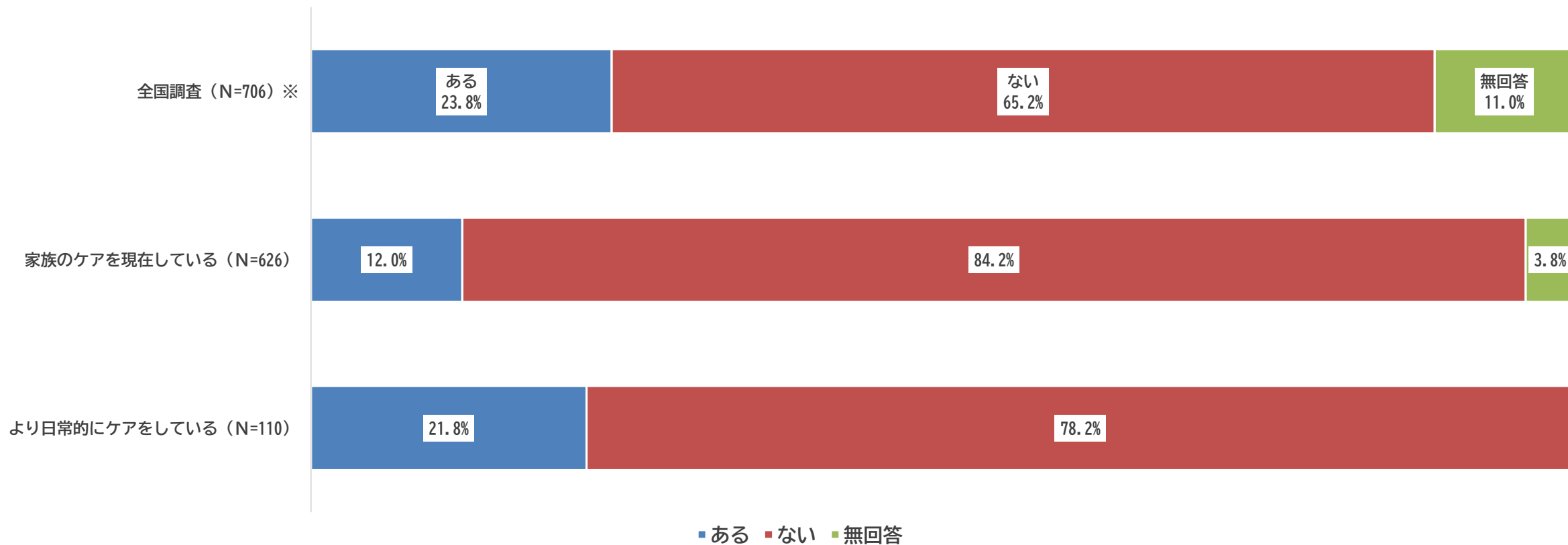
◇自分の生活への影響では、より日常的にケアをしている層で【特に影響はない】が大幅に減少する一方、他の選択肢の割合が総じて増加した。

自分の生活への影響（類型化後）



◇自分の生活への影響について、【何らかの影響あり】【特に影響はない】【無回答】に類型化（第1部参照）して比較したところ、より日常的にケアをしている層において、【何らかの影響あり】が約20ポイント増加した。

ケアに関する悩みの相談経験



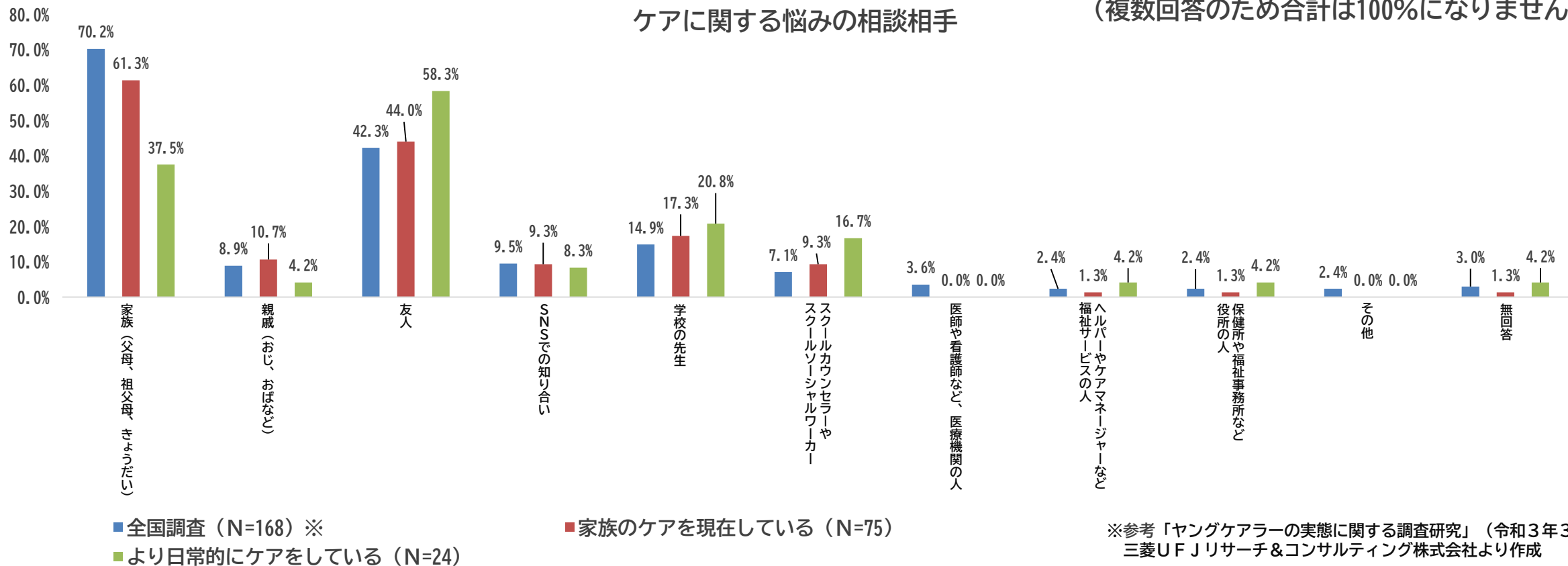
※参考「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和3年3月）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より作成

◇ 相談経験が【ある】との回答は、家族のケアを現在している層に比して、より日常的にケアをしている層の方が約10ポイント高くなり、全国調査において相談経験が【ある】と回答した割合とほぼ同水準となった。

【問20で「① ある」と回答した方】悩みの相談相手（問21）

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
(複数回答のため合計は100%になりません)



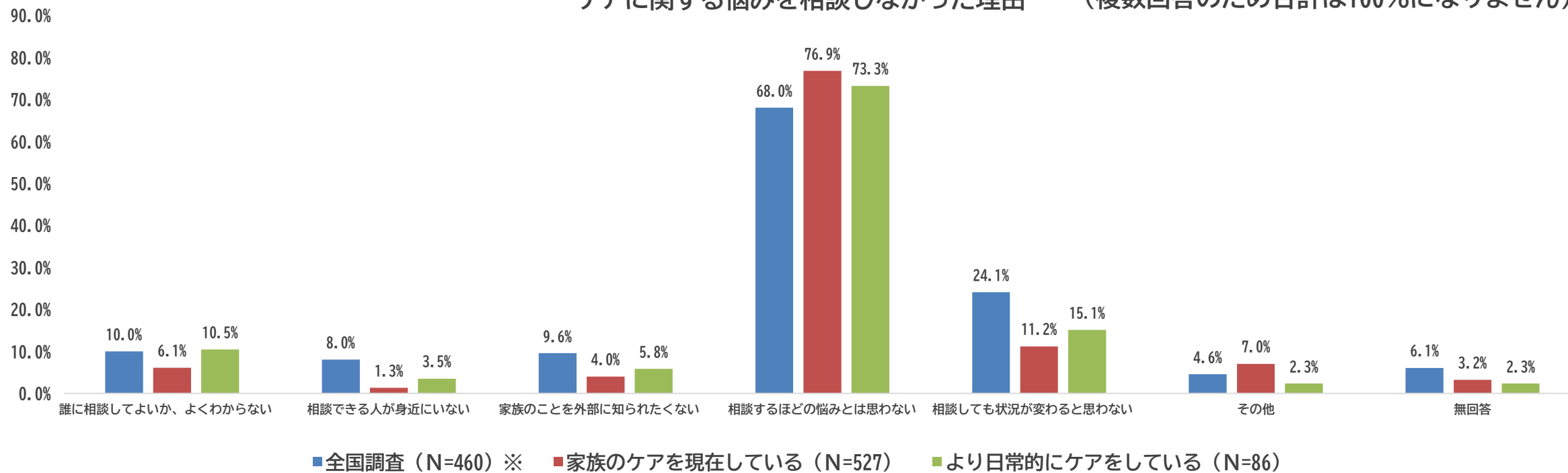
◇ケアに関する悩みの相談相手については、より日常的にケアをしている層では【家族】や【親戚】より【友人】を選んだ割合が高くなった。より日常的にケアをしている層では、【家族】は「ケアを一緒に行う相手」となり、「相談相手」にはなりえていない可能性がうかがわれる。なお、比較に際し、全国調査にある【近所の人】【保健室の先生】の選択肢が本件設問の選択肢にないため、当該項目を除いて比較した。

【問20で「② ない」と回答した方】 悩みを相談しなかった理由（問22）

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
（複数回答のため合計は100%になりません）

ケアに関する悩みを相談しなかった理由



※参考「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和3年3月）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より作成

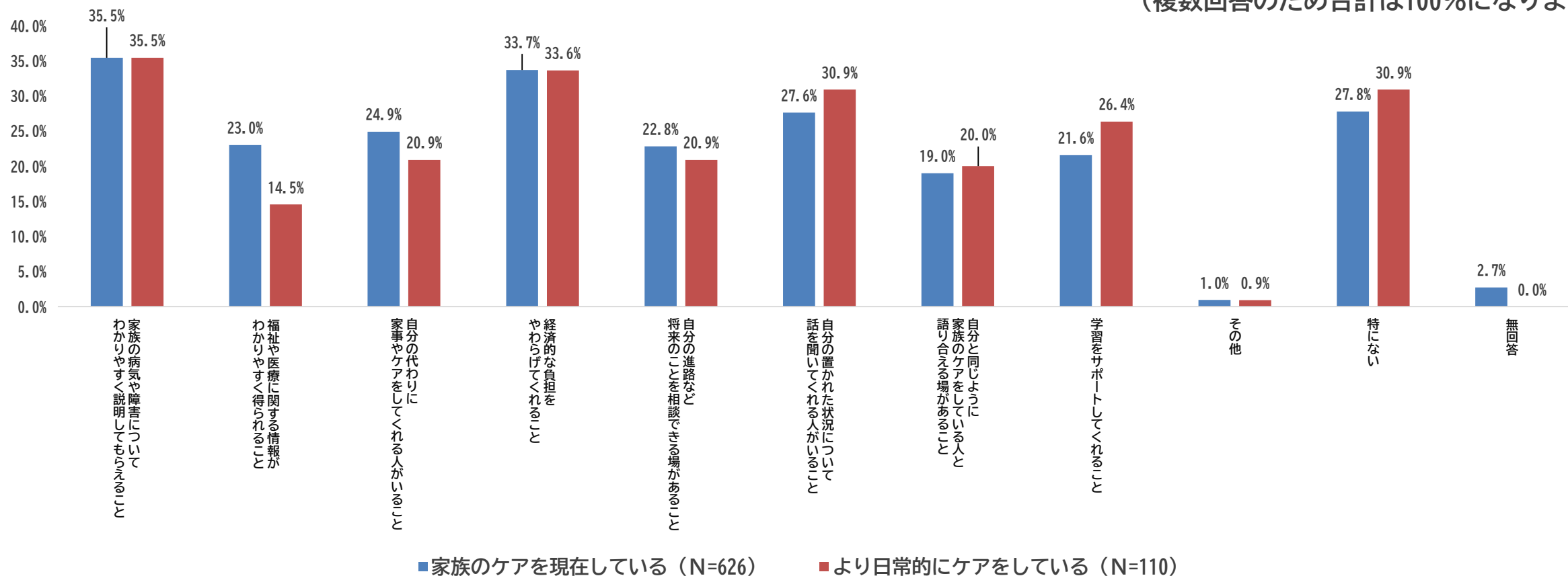
◇ケアに関する悩みを相談しなかった理由については、全国調査の結果と比べ、家族のケアを現在している層、より日常的にケアをしている層のいずれも【相談するほどの悩みとは思わない】の割合が高く、【相談しても状況が変わると思わない】の割合は少なかった。なお、全国調査にある【家族外の人に相談するような悩みではない】【家族のここのため話しにくい】【家族に対して偏見を持たれたくない】の選択肢が本件設問の選択肢にないため、当該項目を除いて比較した。

家族のケアを行う子供のためにあれば良いと思う支援（問25）

中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

◎各層全体に対し該当選択肢を選択した割合
(複数回答のため合計は100%になりません)

家族のケアを行う子供のためにあれば良いと思う支援



◇あれば良いと思う支援については、より日常的にケアをしている層では、家族のケアを現在行っている層に比べ【福祉や医療に関するわかりやすい情報】や【自分の代わりに家事やケアをしてくれる人】の割合が減少する一方、【話を聞いてくれる人】や【学習サポート】の割合に増加がみられた。

